

第87回全国都市問題会議の研修報告書

令和7年10月20日

貝塚市議会議長 阪口芳弘様

川岸貞利

【日程及び会場】

研修名 第87回全国都市問題会議

(成熟社会の都市のかたち～コンパクトで持続可能なまちづくり～)

日程 令和7年10月9日(木)、10日(金)

なお、午前9時30分開始のため、10月8日に現地入りし、宿泊

会場 栃木県宇都宮市 ライトキューブ宇都宮

内容

■ 10月9日(木) 午前9時30分～午後4時30分

○ 基調講演

人口減少・成熟時代の都市とまちづくり 京都大学名誉教授 広井良典氏

○ 主報告

人口減少社会に対応する都市の構造改革 栃木県宇都宮市長 佐藤栄一氏

○ 一般報告

1. 「縮充」発想による公共施設マネジメント

東洋大学国際PPP研究所シニアリサーチパートナー 南学氏

2. 都市縮小時代の持続可能なまちづくり 香川県高松市長 大西秀人氏

3. 次世代交通とコンパクトで持続可能なまちづくり

早稲田大学理工学術院教授 森元章倫氏

■ 10月10日（金）午前9時30分～12時

パネルディスカッション

コーディネーター	埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授	内田 奈芳美 氏
パネリスト	(株)みちのりHD代表取締役CEO	吉田 元 氏
	まちなか広場検収書主宰	山下 裕子 氏
	北海道室蘭市長 青山 剛 氏	代 理
	鳥取県米子市長	伊木 隆司 氏

以上の研修会を通じて、特筆すべき3点について記述いたします。

1. 今後の成熟社会の都市のかたちを模索する上で、どのような取り組みが要請されるのかを考察し、同時にその作業を通じて、成熟社会の都市を展望していくにあたっての見方・考え方について議論を深めていく研修会がありました。
2. 成熟社会の今後を見据え、どのような都市のすがたが理想的であるかは、都市の地域差を考慮しながら、その実情に応じて柔軟に検討していく必要があるが、都市自治体に適応可能な統一的な見解を明らかにすることは難しいものの、これまで蓄積してきたまちづくりに関する事例をいくつか紹介された。
その一例として、宇都宮市が目ざすNCC、いわゆる「ネットワーク型コンパクトシティ」を長期的なまちづくりの方向性として、総合計画基本構想に全国に先駆けて位置づけられ、その取り組みとして、公共交通ネットワークの構築に向け、ライトライนの整備とともに、各地域に延びる路線バスの新設・再編や地域を面的にカバーする地域内交通の運行、公共交通間の連携強化など、ハード・ソフトの両面から一体的に取り組んでいた。
3. 成長型の時代に数多く整備された公共施設が老朽化して更新の時を迎えている現在、殆どの自治体が。その更新はもちろん、大小の修繕のための財源と人材不足で十分な対応はできていない。そのために、統廃合による総面積と固定経費の削減をすすめるための施設機能再構成が、都市の持続発展にとって最も重要な課題の一つとなっている。そして、この公共施設の課題に際して、「縮充」がキーボードとして活用できるのではないか。「拡充」の時代から「縮小の時代」への変化をネガティブとして見るのではなく、縮小しても機能の充実につながれば、むしろポジティブな将来像も描かれるのではないかと考えられる。

以上のとおり報告いたします。